

怪奇実話作家の失踪

2004年4月12日、様々な超常現象や怪奇実話をルポルタージュし、数々の著作やビデオ作品を発表してきた作家・小林雅文の自宅が全焼。小林は行方不明となり、焼け跡から小林の妻・景子の焼死体が発見された。小林は最新の映像作品「プロイ」を完成させた直後だった。



隣家の奇怪な音

それは1年半前、「隣の家から、いないはずの赤ちゃんの泣き声がする」という主婦の取材から始まった。泣き声が聞こえてくるという主婦の隣の家には、石井潤子という名の女性が住んでいた。その女は異様な形相で意味不明な言葉を発し、小林の取材を拒否するが、そのやりとりを撮影した映像には奇妙なノイズが録音されていた。その音を分析した結果、それは複数の人間の赤ちゃんの声であることが分かる。取材直後、石井潤子は転居し、主婦は交通事故で死亡する。空き家となった石井潤子の家には鳩の死骸が散乱していた。



超能力特番

10人の小学生による超能力実験。11歳の少女・矢野加奈はテレビカメラの前で驚異的な透視能力を示し、さらに密封されたフラスコの中に水と人間の体毛を発生させるという物質化現象までも成功させた。小林は加奈を取材するが、加奈は実験のあと体調を崩し、「たすけて」というメモを残して謎の失踪を遂げる。



放送中止となったバラエティ番組

アンガールズとともに心霊スポットとして有名な神社を取材した女優・松本まりかは、突然悲鳴を上げて倒れる。そして、その収録テープには謎の人影が写っており、番組の放映は中止となった。それ以来、まりかの周辺では不思議な現象が次々と起こり始め、まりかの部屋を記録したビデオには「かくたば」という謎の言葉が録音されていた。

TCR 09:27:39:27

